

第9回専門部会 議事録

平成28年5月16日(月) 18時30分～
登別総合福祉センターしんた21 多目的ホール

◆出席委員 松山 哲男
斎藤 正史
近井 一夫
小幡 功
藤田 康
垣内 登紀子
伊奈 綾
千葉 洋子
米田 登美子
井上 昭人
西本 利博
二瓶 秀幸
計12名

◆事務局：商工労政グループ 大越 主査
林倉 担当員
能登 担当員

◆議題：(1)「健康・元気・豊かさ」な「人・企業・地域」とは何かの
確認
(2) これまでに協議してきた3部会の事業と三者の役割
(事業主体)の再確認
(3) 登別市中小企業地域経済振興策の最終報告書概要について

ったが、その時に協議会の中で私が発言したのが、
登別温泉地域と登別地区を考えたとき、もし登別地区にJHCOが縮小して残った場合、一番理想的なのは既存の三愛病院があって温泉地区はある程度カバーでき、地域がコンパクトで交通の手段がいいことと、それから移住してきてあそこに住むのであれば、近くに宿泊施設もたくさんあり仕事があるので、あのエリアを一つのモデル的な地域にできないかということで発言をしました。

地域で生まれ育った豊かさなどあると思いますが、定年になると第二の人生を過ごそうかと思いますが、登別市内全域を見るとあの地域は理想的なのかなと、医療機関があり尚且つそれに関わる既存の施設がたくさんあり豊かな地域だと思います。

委員

健康、元気、豊かさという部分でCCRCとい
いましょうかJHCOの部分でお話しましたが、人と地域に密接な関係があると企業がその中でどのような構想を持っていくかということだと思います。ですからCCRCについて登別市バージョンはどのような内容にしていくか、健康、元気、豊かなという視点で取り組んでいかなければいけないと思っています。そうすると斎藤委員が今お話しした登別地区のコンパクトシティ的な部分の中で人も地域も良くなってもらおうということです。CCRCは登別全体のことを考えていかなければいけないと思います。その辺り行政としてどうしていくのか明確なビジョンが無ければ難しいのかなと思います。

委員

登別全域で考えると構想はできるでしょうけど、地域の利害があるので、妥協したものしか作れないのではないかと思う。登別地区は定住者を増やしていく可能性があると思います。

委員

地元資源を活かして健康元気豊かな人なり企業なりあり地域がというものが大事だということと、CCRCにしても一生涯安心してくらせる街

(2) これまでに協議してきた3部会の事業と三者の役割(事業主体)の再確認

委員

を目指してくのが大事だと思います。川田委員何かございますか。

豊さという事でいいますと、おもいやりのある人間関係のことかと思います。豊かさを目指すのであれば、交流の拠点整備が必要になってくるのかなと思います。

委員

思いやりのある人間関係というのは、健康・元気・豊かな、人、企業、地域の根幹だと思います。しかし連携が十分に取れていないのかと思います。

健康・元気・豊かな人、企業。地域という3つキーワードは今ご意見いただいたものを整理して最終報告書に反映させたいと思います

次に3つの部会でどのような事業を進めたらよいかと協議してきました、人の部会においては交流拠点の整備、企業部会においてはオール登別のプラットフォーム構築、地元愛会議の設置、当面はアーニスの一角で取組を行うと、地域部会においては市内を循環する仕組みの整備、交流の基地構想ということでまとめられております。

各部会の事業をより具体的に実施する上で、交流する場を作っていくことが3つの部会で共通していることから、その辺についてどうなのかご意見をいただきたいのと、事業主体をどうするか、また市、中小企業者等、市民の役割について協議させていただきたいと思います。

例えば人カテゴリーにおいては、登別の自然を満喫するふれあい作りとあります、これを誰がやっていくのかと、この協議会自体も今後どうするのかと、まず事業主体の創設が必要になると思いますがどうでしょうか。

委員

観光都市登別というキャッチコピーがほとんどの方がイメージされていると思いますが、観光協会が先頭に立って観光に携わっている所は、本来少ないと思います、他の地域はプラットフォームがあって全市観光とか行っていると思います。今

(3) 登別市中小企業地域経済振興策の最終報告書概要について

委員

回は登別に来てもらった人に、市内を周遊してもらうには、プラットフォームの構築が必要になると思います。その仕組み作りを急がなければならないと思っています。それが交流の場を作るとか、ハードの部分で施設を作るにあたって大切なことかと思っています。プラットフォームができて初めて次のステップに進むと思います。

新たな組織を作って、拠点作りに向かっていかなければならない、拠点を通した事業の仕組み作りが必要だと思いました。どういう拠点にするかは今後の新たな組織で具体的な話をしていくとうことで考えていきたいと思っています。

次に登別市中小企業地域経済振興策の最終報告書概要についてですが、具体的に取組むべき事業として、ビジョンの策定、事業主体の創設、多機能拠点の整備の3つを3カ年計画として最終報告書としたいと考えておりますがいかかでしょうか。

委員

例えば新しい組織を作るときに、登別ブランドを一括して購入できる場所がありませんよね、そういう場所を作って、そこで新しい商品開発をすると、あと困りごと相談会を行い、市内企業と市民とのマッチングを行うことも必要かと思っています。

委員

道の駅を作ってそこで困りごと相談を行うとか、市民と観光客が交流できる施設になればいいかと思っています。

委員

既存の施設を利用することも考えなければならないと思います、例えばアーニスの一角を利用するなどが考えられるかと思っています。

委員

色々な事業者に新たな組織に参画してもらい、企業同士のマッチングを行うことにより、市民に市内企業を活用してもらうことにつながると 생각합니다。このような内容で最終報告書をまとめてきたいと思っています。では本日はこれで終了しますお疲れ様でした。

